



研究だより



香川大学教育学部 附属坂出小学校

第101回教育研究発表会を終えて

互いに磨き合い、学び続ける子供の育成(1年次) 一個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくりー



ごあいさつ

校長 小西 憲一
副校長 樽本 導和

陽春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では平成31年1月24日、25日の両日にわたり、第101回教育研究発表会を開催いたしました。県内外から延べ約1,400名の参会者をお迎えし、盛会裏に終了することができました。

課題設定以前、課題解決中、課題解決後のメタ認知を促す働きかけについて、また、通常学級における特別支援の視点から、たくさんのご意見をいただきました。さらなる子供の成長を願い、附属の伝統を大切にしつつ、地域の学校のモデルとなるような授業を常日頃から創っていこうと、全教職員で決意を新たにしているところです。

新学習指導要領がねらう資質・能力とメタ認知の重要性について講演をしてくださった上智大学の奈須正裕先生、懇切なるご指導ご助言をいただきました。香川県教育委員会、各市町教育委員会、香川大学教育学部の先生方、また、運営にご協力くださいました保護者、ボランティア学生及び関係各位に対して、心より御礼申し上げます。

国語科

第1学年「お話の音クイズでお気に入りの場面を紹介しよう ～『おとうとねずみチロ』～」
かたおか あまこ うちだ たまよ
片岡 亜貴子 ・ 内田 珠世（支援員）

子供たちはこれまで、お気に入りの場面の様子から想像したことを擬声語や擬態語に表して「お話の音クイズ」を作り、クイズ図書館にして本を読み合おうという目的をもって学習を進めてきました。本時は、共通教材のお気に入りの場面について、友達と一緒により豊かに想像を広げてクイズの言葉を吟味することを学習課題としました。目、耳、手等の様々な感覚を使って想像した音とその理由について交流する中で、友達と一緒に学習するよさを再確認しながら、場面の様子をより具体的に捉えてクイズを作っていました。

課題設定以前



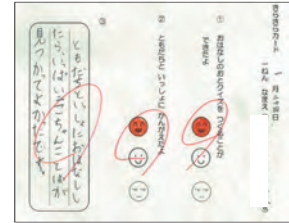
単元の始めに立てた学習計画や話し合い活動の写真等を基に、本時の学習の見通しをもちながら、学習課題を設定しました。

課題解決中



使った感覚ごとに色分けした付箋を用いて自分たちの考えを比較し、様々な感覚からお気に入りの場面の様子を捉えていきました。

課題解決後



イラストの顔の表情に印を付けたり、感想を記述したりして自己評価をした後、それを全体で共有しながら授業を振り返りました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・学習の手順や人物の気持ちを可視化する等、子供たちが学習に集中しやすい環境が整えられていた。
- ・思考の手立ては大事にしつつ、物語のストーリー自体の面白さにもっと浸れるとよかったのではないかな。

国語科

第4学年「相手を意識して話し方を工夫しよう ～報告します，みんなの生活～」
あまこ ともひさ
尼子 智悠

子供たちは、1年生にアンケートの結果を分かりやすく伝えられる「報告マスター」になるために、学習を進めてきました。本時は、それぞれの報告を友達と見合い、どのような話し方をすれば、1年生によく分かるのか、工夫するとより分かりやすくなることについて、アドバイスし合うことを学習課題としました。間の取り方や強弱、視線という観点を中心に、自分の発表を振り返ったり、友達にアドバイスをもらったりしながら、自分の報告の仕方を修正し、よりよいものにしていきました。

課題設定以前



単元の始めに計画した「報告マスターへの道」を基に、これまでできたことを振り返り、本時の学習課題を確認しました。

課題解決中



タブレットを使い撮影した、自分や友達の報告を見ながら、話し方を振り返り、工夫点をアドバイスし合いました。

課題解決後



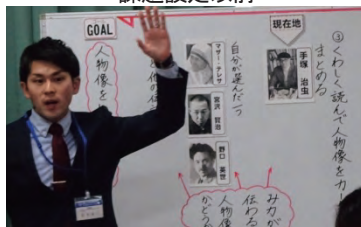
振り返りカードに、毎時間の自分の伸びをグラフ化し書き込んだり、できたことや、その理由を言葉で振り返ったりしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・タブレットで撮影したこと、観点を絞ったことで、より自分の発表をメタ認知できるものになっていた。
- ・「話し方」と「構成」を繰り返し吟味できるような活動にすれば、さらに教科のねらいに迫ることができる。

子供たちは、前時までに自分が選んだ伝記に描かれている人物の人物像を友達に紹介するために、共通教材で人物像を想像しました。本時では、複数の叙述を結び付けて人物像を想像するという共通教材での学びを生かし、自分が選んだ伝記でも人物像を想像していきました。そして、人物像とその根拠となる叙述について、同じ伝記を選んだ友達と話し合うことで、一つの叙述の中に複数の性格や考え方が表れていること等に気づき、人物像を再考していきました。

課題設定以前



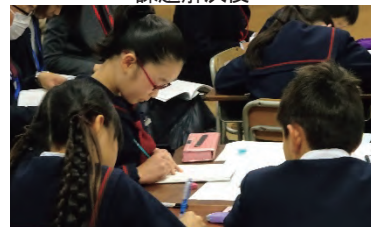
単元のはじめに立てた、人物像を友達に紹介する計画と、前時までにできたことを照らし合わせ、学習課題を確認しました。

課題解決中



人物像を書いた付箋をボードに貼り、自分と友達の考えの違いを視覚的に捉えることで、進んで考えの理由を聞き合いました。

課題解決後



できたこと・分かったこととその理由、さらに取り組みたいことの観点で振り返り、学びの成果や協働のよさを感じました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・人物像を書いた付箋を使い、共通点・相違点を視覚的に捉えさせることで、対話への意欲が高まった。
- ・考えを修正しなかった子供の理由も価値付けることで、自分の読みを大切にする意識を育てることができる。

これまで子供たちは、瀬戸大橋が長い年月と多額の建設費を使って架けられ、その工事には多くの困難があったことを学習してきました。橋によって、香川県に増えてきたはずのコンビニエンスストアが、橋の無い島にも存在することから、瀬戸大橋があることの本当の価値について話し合いました。そして、安全に速く海を渡ることに加え、たくさんの荷物を運ぶことができるようになったことで、自分たちの生活も豊かになっていることを捉えていきました。振り返りでは、自分が課題解決に至った理由などについて話し合いました。

課題設定以前



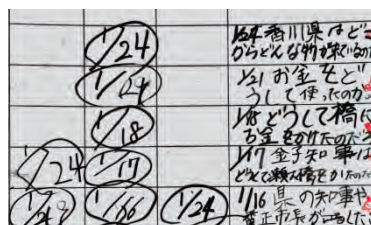
補助黒板を使って学習を振り返り、瀬戸大橋が架けられた理由が不明確であることを共通理解し、本時の課題としました。

課題解決中



発表ボードに自分の考えを書き、その根拠となる資料を貼り付けて説明することで、自分の考えの妥当性を確かめました。

課題解決後



「友達の話を聞いて分かった」などの観点で、「振り返りグラフ」に記録し、自分の得意な学習方法に気付いていきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・補助黒板の資料を、子供たちが自ら進んで使いながら考えをつくり、話し合うことができていた。
- ・導入場面で問いを焦点化させ、班活動で解決していく時間をしっかり確保していきたい。

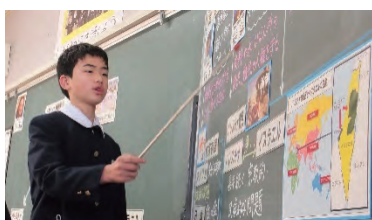
社会科

第6学年「平和な世界を築く日本の役割 ～人がつながる 未来へつながる～」

ではま
出濱 だいすけ
大資

山下泰裕氏が行っている紛争地域への柔道支援の意味について話し合っていました。子供たちは、オリンピックの理念や紛争地域の実態など既習を基に柔道によるスポーツ支援の価値について考え、お互いの文化や宗教の違いを超えて認め合うことの重要性と難しさについて理解していきました。その中で、山下氏がイスラエルとパレスチナの子供たちに柔道を教えていることに気付いた子供たちは、スポーツで人をつなげることで未来において解決を図ろうとする思いがあるのだと、国際協力の在り方を再構成していきました。

課題設定以前



補助黒板を使って学習を振り返り、これまでの学習の分かっていることと不確かなことを基に、本時の課題を明確にしました。

課題解決中



発表ボードの関係図に矢印を書き、その理由を既習と関係付けながら説明することで、自分の考えの妥当性を確かめました。

課題解決後



自分が納得できた理由について振り返り、時間を広げて未来において解決を図る等の考え方のよさを実感していきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・既習が補助黒板に整理されており、導入でクラス全体の意識が学習課題に向かいやすくなっていた。
- ・グループで活発に出た意見を全体交流で組織化するための支援があれば、考えは深まったのではないかと。

算数科

第1学年「数当てクイズをつくろう ～大きい数～」

よしい ゆうま まき ゆうじ
好井 佑馬 ・ 牧 祐二 (支援員)

これまで子供たちは、いろいろな数当てクイズづくりに取り組み、10のまとまりに着目して、数の数え方や比べ方を考えて、数の概念や表し方を捉えてきました。本時は、□が並んでいる数当てクイズづくりに取り組みました。 $80 - \square - 95 = 100$ というクイズについて、おかしいと思う点は何かを友達と話し合い、「同じ数ずつ増えている」という思考の手がかりに気付きました。それをを用いて、自分でクイズづくりを行い、そのクイズが正しくつづけているかを友達と話し合うことで、数の系列の理解を深めていきました。

課題設定以前



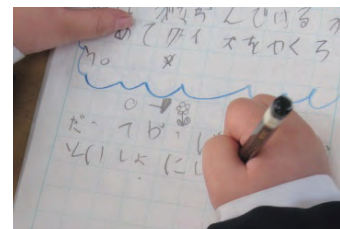
「できたよマップ」を見て、学習計画やこれまで学んだことを振り返ることで、本時の学習課題を確かめました。

課題解決中



数表や数直線などから自分の使いやすいものを選び、理由を比べながら、数当てクイズが適切であるかどうかを話し合いました。

課題解決後



3段階で自己評価した課題解決中の自信度と課題解決後の達成度を比べ、自分の変容や自分が行った学び方を振り返りました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・間違った問題を訂正しようとする中で、子供たちが意欲的に学習に取り組み、思考の深まりが見られた。
- ・数の系列を考える順序を共有することで、より自信をもってクイズづくりに取り組めたのではないかと。

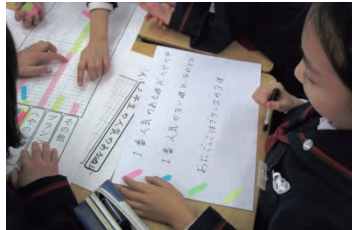
これまで子供たちは、低学年の子供たちが昼休みの運動場の遊びで困っていることの原因を探ろうと、人気のある遊びについてアンケートを作成して調べてきました。本時は、班ごとに学年を決めて人気のある遊びを棒グラフに表し、気付いたことや考えたことを話し合いました。「ぶつかって困っている人が多いのは、1～4年生に鬼ごっこが好きな人が多いからだろう」「5、6年生にはボール遊びが人気だから、そのボールが当たって困っていると思うよ。ぼくも当たったことがあるよ」などと、問題の原因について考察を深めました。

課題設定以前



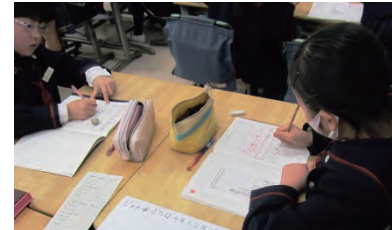
これまでの学びと学習計画を振り返り、「〇年生の人気のある遊びを調べよう」という本時の学習課題を共有しました。

課題解決中



お話タイムでは、棒グラフの着目した点に付箋を貼り、気付いたことや考えたことを班の友達と話し合い、思考を深めました。

課題解決後



「分かったことやできたこと」「もっと考えたいことやしたこと」「友達によさやよい考え」の三つの観点で振り返りました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・すべての子供たちの学習意欲が高く、班で協力しながら活動したり話し合ったりすることができていた。
- ・棒グラフの結果とそこから考えられる考察を分けて発表させれば、より話し合いが深まったのではないかな。

音楽室にある様々な楽器に触れ、音を出す活動を通して、楽器とその音に興味をもった子供たち。前時に、太鼓、トライアングル、ギターなどの三つの楽器について調べ、音が出るときにそれぞれが震えていることを確かめました。その学習を基に、本時はさらに楽器の音の大きさと震え方の関係について追究していきました。これまでの楽器に触れた経験から、「音を大きくすると震え方も大きくなる」「大きさを変えても震え方は変わらない」などと、様々な予想が出されました。実際に音を出して調べ、その関係を捉えていきました。

課題設定以前



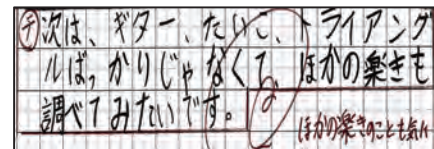
補助黒板や動画で前時を振り返り、「音を大きくすると震え方が大きくなるようだ」という気づきから学習課題を設定しました。

課題解決中



三つの楽器の震える様子について調べたことを、絵を用いて説明し、音の大きさと震え方が変わることを確かめました。

課題解決後



「その時間に解決できたこととその理由」「次の時間に取り組みたいこと」という二つの観点から学習を振り返り、追究意欲を高めました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・前時から本時への意識がしっかりつながっており、子供のしたいことが学習課題となっていた。
- ・三つの楽器を用いたために、課題が複雑になっていたのも、もっと焦点化するとよかった。

単元導入において、ブランコに乗る活動を行い、その経験を基に前時には、振り子が1往復する時間は何によって変わるのかという学習課題を設定していました。本時はグループごとに調べる条件を決め、実験を進めていきました。実験中や結果が出た後には他の班を見て回り、実験方法や結果を確認しました。さらに、進んでおもりの重さや振り子の長さを変えて実験する子供も多く見られました。実験結果をグラフ化し、そのグラフを基に考察することで、振り子の1往復する時間に関するきまりを捉えていきました。

課題設定以前



三つの条件のうち、どの条件で1往復する時間が変わると考えていたのか、予想を確認し、実験に向かいました。

課題解決中



うろうろ発見タイムで他の班の実験方法や結果を見て回り、自分たちと比べながら実験の修正や考察をしていきました。

課題解決後



班のよかったところや次にしたいことの観点で振り返り、協働のよさに気付くとともに、新たな問題を見出しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・うろうろ発見タイムは、他の班と比較し、自分たちの実験についてメタ認知を働かせるのに有効であった。
- ・実験方法の修正点などをボードにメモしながら実験すると方法に関してもよりメタ認知を働かせられた。

これまで子供たちは、幼稚園の友達をもつ「もっと、おもちゃで遊んだり、作ったりしたい」という思いや願いの実現に向け、おもちゃの準備をしてきました。本時は、まず、幼稚園の友達と一緒に楽しく遊ぶために、前時までの活動でうまくいかなかった場面を教師の役割演技で例示し、おもちゃの作り方、遊び方、伝え方について話し合いました。そして、実際に幼稚園の友達と活動できる時間を設け、一緒におもちゃを作ったり、遊んだりする活動を繰り返す中で、おもちゃの作り方や遊び方、伝え方を工夫していきました。

課題設定以前



「青組さんの作りたいおもちゃを作って、楽しく遊びたい」という子供たちの思いや願いを確認し、本時の課題としました。

課題解決中



相手の反応を確認しながら、自分の伝え方などを振り返る時間を設けることで、さらにおもちゃを工夫していきました。

課題解決後



本時の活動でできたこと、その理由を考えたり、教師の見取りを聞いたりすることで、自分の関わりのよさに気付きました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・修正が必要な場面について具体的に考える場を設けることで、園児との関わりを意識させられていた。
- ・協働への意欲をより高めるには個々の言動について振り返り、その後全体での共有が必要ではないか。

本時までには、子供たちは、『ピーターとおおかみ』の鑑賞で得た音楽づくりに必要な仕組みや要素を基に、全体で共通の森の音楽をつくり、学習の進め方について見通しをもちました。その後、範奏や友達の工夫した演奏を聴きながら、自分たちの森の演奏に生かしていきました。本時は、ギロとカスタネットの範奏を聴き、グループでどのように演奏を工夫するかを話し合っ、自分たちの思い浮かべた森の情景に合うように、呼びかけとこたえのような音楽の仕組みや強弱等の要素を取り入れながら、工夫して音楽をつくっていきました。

課題設定以前



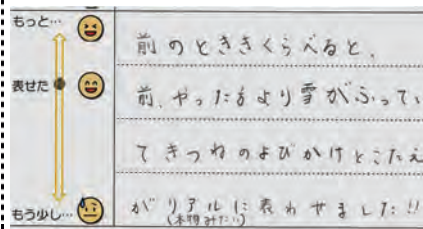
森の絵と図形楽譜をつなぎながら、できたこととできていないことを確認することで、自分が工夫するところを明確にしました。

課題解決中



呼応や強弱を工夫した範奏や友達の演奏を聴き、表される様子を思い浮かべて、自分の演奏に生かす視点に気付いていきました。

課題解決後



思い浮かべた様子を演奏で表せたかどうかとその理由を書くことで、学び方のポイントや協働のよさに気付いていきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・絵や図による思いや意図の可視化、録音による確認、前時と比較できる板書等が課題解決に有効だった。
- ・子供たちがつくった音楽を、生活の中にどのように結び付け、生かしていくか検討していくとよい。

本題材で子供たちは、まず、初めて触る土粘土の感触を楽しんだり、つくることができる形の面白さを見付けたりしました。その材料体験を基に自分が表したいイメージをもち、それを表そうと製作してきました。本時は、もっと自分のイメージに合う工夫を考えたい、そのために友達と作品を見せ合っ、もっと面白くする工夫を見付けたいという思いから、始めに全体交流を行いました。友達の作品から、より自分のイメージを表すための工夫を見付け、その後の自分の製作に生かし、表し方を工夫していきました。

課題設定以前



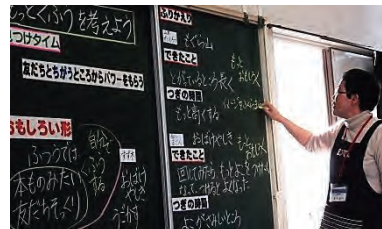
前時までの作品の写真等を振り返りながら、今までにできたこと、今日やりたいことを確認し、本時の学習課題を設定しました。

課題解決中



友達の作品から自分と違う表し方を見付けたり、自分の作品をいろいろな所から見たりして工夫を考えながら製作しました。

課題解決後



本時できたことを振り返り、その理由を考えることで、友達との協働等、作品をより面白くする学び方のよさを実感しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・自分の作品の変容を写真や記述で記録することで、見通しをもって課題解決に向かうことができた。
- ・交流の場面で、友達と話せていない子供を細かく確認し、全員が活動に参加できるよう促す必要がある。

子供たちは、前時までには、自分の生活を豊かにする袋を作ろうと、使用目的を明確にして、トートバッグ、巾着、クッションカバーから形を選択して、製作計画を立てました。本時は、製作に向けて、どんな布を用意するか考えるために、見本の布から使いたい布を選び、その布を選んだ理由を話し合いました。そうすることで、丈夫さや汚れの目立ちにくさといった布選びの視点を明確にしました。自分の目的に合う布はどれか、自分たちが縫いやすい布はどれかについて、様々な視点から布を見つめ、製作に適した布を選んでいきました。

課題設定以前



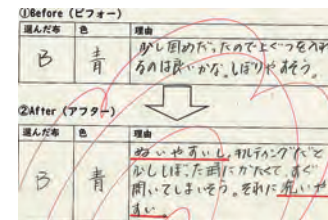
題材の初めに考えた学習計画を見ながら、前時までには解決できたことを確認し、本時の学習課題を設定しました。

課題解決中



例えば、製作する際の布の扱い方について保護者の意見も聞いて、布の特徴を捉え、自分の目的に合った布を選んでいきました。

課題解決後



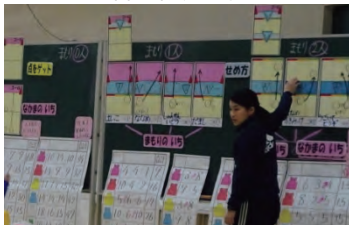
本時のワークシートの、考えが深まったと思う部分に下線を引き、その理由や生活に生かしたいことを友達と話し合いました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・実物を手に取りながら、ワークシートに理由を書いたことで、全員が布選びの視点を明確にして話し合えた。
- ・布の特徴を捉えていく際は、保護者の話だけでなく実験等を見せて納得できるようにするとよい。

本単元で子供たちは、たくさん得点して勝つために様々な攻め方を見つけてきました。しかし、守りが一人から二人に増えたことで、これまでに見つけた攻め方だけでは得点が減ってしまいました。そこで、本時は「もっと点をゲットするための攻め方を見付けよう」という学習課題を設定しました。ゲームを楽しむ中で、「守りの位置」だけでなく、「仲間の位置」も見て転がすと得点につながることに気付いていきました。そして、友達と連携して攻めることで、「もっと点を取って勝ちたい」と意欲的にゲームに取り組む姿が見られました。

課題設定以前



守りが一人と二人のゲームの概要図と得点表を比較し、得点できる攻め方を見付ける必要性を感じて学習課題を設定しました。

課題解決中



自分が選んだ攻め方やその理由をチームの仲間と伝え合い、共通点や相違点を明らかにし、より得点できる攻め方を選びました。

課題解決後



「自分の頑張り」「友達の頑張り」の観点で振り返りを行い、うまくいった攻め方とその理由を紹介し合いました。

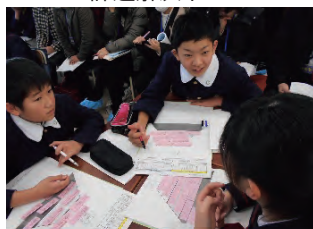
授業討議でのご意見・ご指導

- ・前時までのゲームとその際に見つけた攻め方を可視化し、振り返ることで、本時の課題が明確になっていた。
- ・ゲームに浸れるように1ゲームの時間を長くすると、さらに攻め方のよさに気付けたのではないかな。

子供たちは、病気にならず健康な生活を送るために、主に生活習慣を基に自己の課題を設定し、課題に応じた予防法を見付けてきました。本時では、様々にある予防法の中から自分が続けてできそうな予防法を選び、選んだ理由を友達と伝え合う中で、より自分に合った予防法を見付けていきました。

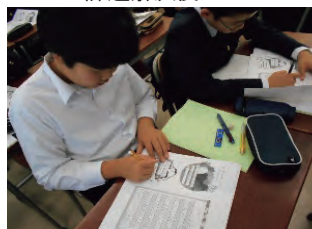
また討議後、教育相談についての提案を行い、養護教諭として「スクールカウンセラー（SC）とどのように連携を図るのか」「保護者をどう支えるのか」「子供にどう関わるのか」について事例を基に話し合いました。

課題解決中



予防法のランキングについて話す中で、予防法を選んだ理由について伝え合い、より自分に合った予防法を選んでいきました。

課題解決後



「健康未来レターに書き加えたいことが見付かったか」「書き加えられた理由」の観点で本時の学びを振り返りました。

教育相談体制についての提案



SC や教職員との連携を深めることで、子供の気持ちに寄り添った支援を実現しようとする本校の教育相談体制を提案しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・ 予防法をランキングして、お互いの優先順位が視覚化されたことで、対話の意欲が高まった。
- ・ 見付けた予防法をどのように日常生活で実行に移すのかを伝えると、より実践につながるのではないか。

これまで自分の紹介したいヒーローについて、どんな内容を紹介するのか考えてきた子供たち。本時はまず、ヒーローについて3ヒントクイズで友達に伝えようという思いを基に設定していた学習課題を確認しました。教師とママーズ（保護者ボランティア）のやり取りを見る中で、聞く際には、うなずきながら聞いたり、質問したりするとよいということを捉え、自分のやり取りに生かしていきました。さらに友達のよい例を見て、自分と比べて考えることで自分のやり取りをよりよくしようという思いを高め、進んでやり取りをしました。

課題設定以前



ママーズと一緒に、これまで慣れ親しんできた単語について文字だけで発音し、その単語を使った表現の仕方を確認しました。

課題解決中



担任とママーズとのやり取りをモデルにし、自分たちのヒーローについて、紹介ボードを使いながらやり取りを繰り返しました。

課題解決後



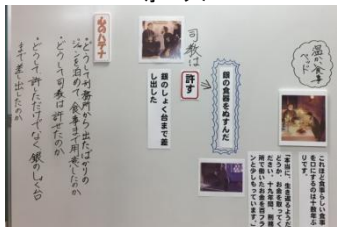
できたこと、次にしたいことという観点で振り返りました。他のヒーローも紹介したいなどの次にしたいことを表出しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・ ママーズや友達のモデルを、自分のやり取りをよくするための視点をもって見るのが効果的だった。
- ・ 単元のねらいに応じて振り返りの観点を変えると、より分かったことについて振り返らせることができる。

子供たちが事前に教材文を読んで、感じた「どうして司教はジャンを許せたのか」等の疑問を共有しながら、相手を許すにはどんな思いが大切なのだろうという学習課題を設定しました。そして、自分が司教ならジャンを許せるかどうか、司教はどのような思いで銀のしょく台まで差し出したのかについて話し合いました。その中で、子供たちは、司教が相手の思いや、置かれた状況にまで目を向けていることに気付いていきました。そして、振り返りでは、「相互理解, 寛容」の価値の理解を基に、これまでの自分の行動を思い返し、広い心で友達や家族と関わろうという思いを高めました。

導入



事前に教材文を読み、そこで感じた疑問をまとめ、全体で共有することで本時の学習課題の妥当性を感じました。

展開



自分だったら許せるかどうかを心メーターに示し、友達との考えの違いに気付いたことで、進んで理由を聞き合いました。

終末



振り返りでは「これまでの自分」「これからの自分」の二つの観点でノートに記述し、自分のよさを実感しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・心メーターで、友達との考えの違いを視覚的に捉えさせることで、対話への意欲が高まっていた。
- ・司教の思いを考えさせる際にも、教師が対話を促す助言を行えば、より価値の理解が深まったのではないかと。

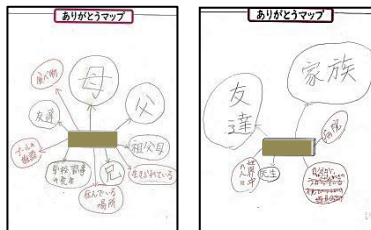
羽生選手がイナバウアーを演技構成に入れることにこだわった理由を話し合う中で、荒川選手に対して、スケートリンク閉鎖の危機を救ってくれたことへの感謝や、美を追求する姿勢への尊敬の気持ちがあることに気付きました。また、感謝を表す羽生選手の行為から、応援してくれている方々や家族など、様々な人の支えや助けによって成り立っている日々そのものや、自分が存在していること自体への感謝が大切であることを理解していきました。そして自己を振り返り、支えてくれている人々の善意に応じて、これから自分がすべきことを自覚し、進んで実践しようとする気持ちを高めました。

導入



授業前に集約していた、子供たちの問いの中から、キーワードを共有することで、本時の学習課題への妥当性を感じました。

展開



感謝の対象の広がりや、「ありがとうマップ」で可視化したことで、友達との考えの違いに気づき、進んで理由を聞き合いました。

終末



「自分のよさ」「自分の課題」「心に残った友達の考え」「実行する難しさ」の観点で振り返り、互いのよさを伝え合いました。

シンポジウムでのご意見・ご指導

- ・自分や他者の考えを可視化することで、考えの共通点や相違点に気づき、対話の意欲が高まっていた。
- ・中心価値に関わる発言が出た際、教師が問い返すことで、さらに価値の理解が深まったのではないかと。

全体講演

奈須 正裕 先生「資質・能力の育成とメタ認知」

1 資質・能力を基盤とした学力論

新学習指導要領は、「見方・考え方」と「資質・能力の三つの柱」からなる4文構成の目標となり、構造的に学力論を示しています。「見方・考え方」があつてこそその「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」と「知識及び技能」にしようという考え方になっています。「知識及び技能」は引き続きとても大切ですが、それをどう理解し、使っていくか、一定程度教えて、手ほどきをしていく必要があります。



2 メタ認知の位置付け

育成すべき資質・能力の三つの柱の中で、メタ認知は、「学びに向かう力、人間性等」に位置付けられます。OECDの定義では、別枠に位置付いており、見る方向や切り口によって、様々な捉え方があります。

3 メタ認知の育て方

メタ学習の具体的な学力要素としてメタ認知とマインドセットが挙げられます。メタ認知は、自分の中で思考や感情等をモニターするオンライン・モニタリングという技能的側面と、自分が何ができるか等の理解・把握であるメタ知識という知識的側面があります。また、マインドセットには、「努力する子が賢い子になっていく」と考える「Growth-mindset」と「同じ成績なら、努力した子の方が賢くない」と考える「Fixed-mindset」があります。能力ではなく、努力やプロセスを評価対象にして、内発的動機付けをもたらす「Growth-mindset」にしていきましょう。それとともに、メタ認知をカリキュラムや授業まで広げていくことは、子供たちの学びを豊かで自覚的・主体的・個性的にしていくことにつながります。そのために、教科の「方法」を明示的に繰り返し教えたり、メタ認知を促すような問いを工夫して指導したりしていくことが大切です。

シンポジウム

全体授業を基に「互いに磨き合い、学び続ける子供の姿」について話し合いが進められました。



【植田先生】展開段階で、子供から「自分が今ここに立っていることに感謝」というねらいに迫る発言があり良かったが、より深められるポイントになっていました。友達の発言を自分はどうイメージしたのか、そういった個々の考え方や感じ方を表出し伝え合うことで、さらに考えが深められます。そして、子供たちの考えや思いを継続的に見取ることが評価にもつながります。教師と子供と一緒に考え続けていく、その中でじわじわと分かってくる、そのような「なぜ、どうして、と考えることの愉しさ」に気付く子供たちを育ててほしいです。

【岡田先生】事前読みで考えたことと本時に考えたことを、上下で比較できるようにしたノートを使っての振り返りや、画像提示による成功体験の想起など、自分につなげられる工夫がなされていたことで、メタ認知が促されていました。今回は感謝の大切さを「感謝は大事。だって…」と確証していく授業でしたが、「感謝は大事じゃないかも…でも…」と反証をしていくという方法も考えられます。価値を自分なりに吟味し、やはり感謝は大事なのだと考えられる子供が育てば、より深まりのある授業となるでしょう。

【坂井先生】授業の流れをルーティン化して見通しをもたせておくことで、子供たちは安心して授業に参加できていました。個の考えを視覚的に捉えられる「ありがとうマップ」は、書かれているものやその大きさと、子供が大事にしているものがよく分かりました。逆に、小さく書かれているところに課題があるとも見取れるので、評価にも生かすことができるでしょう。なお、子供どうして意見をつなぐ際には、指名されない子供が集団の中で認められていないと感じることがあるので、十分な配慮が必要です。

分科会講演

齋藤 嘉則 先生「小学校英語 授業実践上の課題—メタ認知と英語学習—」

1 英語科でのメタ認知とは

孫子の「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」という言葉がまさにメタ認知的活動を表現しています。自分や自分を取り巻く環境を把握し、何を知っていて、何を知らないかを理解することがメタ認知機能のひとつです。また、問題が生じた場合、原因をモニタリングし、解決に向けた対策をコントロールしていくなどの危機管理は日常的に行われています。今後、生涯学び続ける子供を育てるためにはこのメタ認知が重要になるでしょう。



英語科の授業で、“He like baseball.”と発話して、“He likes baseball.”だったかなと確認するなど、文法知識に照らし合わせて英文をモニタリングする際にメタ認知的活動が行われます。このように、頭の中にあることを言葉として表現する過程そのものがメタ認知的活動だということもできます。

2 小学校英語で大切にしたいこと

ある程度不自由なく英語が使えるようになるには、一般的に3,000～5,000時間かかるといわれています。それに対して、学校での英語の授業はある調査によると、高校までで1,000時間程度とされています。このことを考えると、小学校では、大量のinputと少量のoutputという考え方で授業を行いたいと思います。inputの留意点は、聞く時のポイントを前もって伝えておくことで、子供たちが意図をもって「聴く」ようにすることです。このように、限られた時間を有効に使い、英語を聞く時間に重点を置くことで学習の効果が上がります。例えば、本研究会で活躍していたママーずさん（保護者による英語ボランティア）は非常に子供たちの英語学習の助けになります。英語を聞く場面が増えるからです。基本的な表現が多量にinputされた子供たちは、これらを基に自分たちの伝えたいことを表現したくなっていきました。こういった状態でoutputしてこそ、コミュニケーションとして使える英語が育っていくと言えるでしょう。

植田 和也 先生「道徳科でめざす授業とメタ認知」

1 道徳科の授業におけるメタ認知

自問と内省は授業の終末だけで行うものではありません。Aさんの発言を聞いたBさんが考えていることを問うなどして、子供どうしをつなぐことも有効です。

課題に対して安易に結論を出させず、子供が思いや感じ方を友達と比べながら、自分なりの考えをもてるようにすることが、メタ認知を促すことにつながります。



2 組織やチームでの取組を基盤に、個人として日々の授業力の向上をめざす

まず、学校全体で道徳教育の使命や目標を共通理解することが大切です。そして、全ての教員が学習指導要領解説を読み、めざす授業像や授業改善の視点等を共通理解するなどの基本的なことから校内で研修しましょう。例えば、中心発問に対するタイプの違う3名の子供の発問を想定したり、板書を構成したりして、授業づくりの研修をすることができます。30分程度の短時間でも、できることから取り組みましょう。

質の高い授業づくりを行うためには、①教師が子供のことを懸命に分かろうとする努力、②多面的・多角的な理解に加えて心の交流を大事にした話合いや語り合う活動、③価値理解、人間理解、他者理解を通して、自己理解を深め、自分自身が大切にしていけることを再構築する自己内対話と振り返りの三つが必要です。

また、「教師からの発問、指示、助言等が繰り返し行われ、しゃべり過ぎていないだろうか」などと、教師が自分の授業を振り返って、ほんの少しでも自分の課題を意識して授業を行っていくことが重要です。

3 道徳科の授業に対する評価

学習指導要領解説の第5章道徳科の評価について確認をしてほしいと思います。評価の視点と観点を校内で共通理解することが大切です。子供を見る際の視点（学習指導要領解説 p111）を教師が授業を振り返る観点到置き換え、共通理解した観点を基に自分の授業を見直したり、互いの授業を参観したりしてみましょう。

分科会講演

坂井 聡 先生「特別な支援が必要な子供たちに、どうやってメタ認知を促すか」

1 特別な支援が必要な子供についての理解

特別な支援を必要とする子供たちは、認知の仕方が違います。例えば、授業中に、じっと席に座っているよりも体を動かしながらの方が集中して話を聞くことができる子供がいます。教師がこれまでの常識の中で子供を捉えるのではなく、子供一人一人の気質を理解することが大切です。そうすることで、「どうして、この子はできないのだろうか」から「自分（教師自身）の伝え方に問題はないか」などと自分の支援について振り返るようになります。メタ認知を促す学習支援を行うためには教師が、自らが行う学習支援についてメタ認知できていることが前提となります。



2 具体的な学習支援と評価

その授業でねらうこと、つまり、本質が何であるかに応じて、支援を行うことが必要です。例えば、国語科の授業において、その時間の本質は文字を書くことなのか、自分の考えを文章にまとめることなのかを明確にします。本質が文章にまとめることなのであれば、文字を書くことが難しい子供は、パソコンで書けばいいのです。できることに着目し、小さな目標からスモールステップで取り組ませたり、子供のつまづきに対するアイデアを提案したりすることで、特別な支援が必要な子供たちも課題解決に向かえるはずです。そして、課題に対して、なぜ成功（失敗）したのかを振り返っていくことで、メタ認知を促すことができます。振り返る際には、どのように振り返るのかなど、子供が自らの学びを適切に見つめるために教師の支援が必要です。

評価するときは、相対評価ではなく、その子供の伸びに目を向けることが大切です。相対評価では、学級全員ががんばったら、1番だった子供は1番のまま、最後だった子供は最後のままです。マイナスに作用する相対評価は無力感を学習させることとなります。次への意欲につながるような評価を意識しましょう。

岡田 涼 先生「メタ認知を支える学習意欲」

1 メタ認知を促すために

メタ認知ができている子供とは、「自分の得意・不得意に気付いている」、「事前に目標や計画を自分なりに立てている」、「やり方を自分なりに工夫しながらできる」、「振り返りや自己分析ができる」等、自分の考え方や学び方に対する意識がもてる子供のことです。自分で学習を進めていく自律的な学習をするためには、このメタ認知の力が必要です。その際、子供の発達段階に合わせて、指導の仕方や教材を工夫し、少しずつメタ認知的な経験をさせるようにしていくことで、メタ認知を働かせることができる子供になります。また、仲間との関わりも有効です。交流のさせ方を工夫することで、自分の思考の特徴に気付く等のメタ認知を促すことができます。



2 学習意欲を促すために

学習意欲は、教師からの働きかけや仲間との関わり、課題・活動の特徴等の影響を受け、変動します。学習意欲を高く保つためには、自分の興味や好奇心で自分から学習する内発的動機付けを大切にしましょう。また、「できた」と感じる経験をさせることが意欲につながります。そう感じるためには、「程よくチャレンジングな課題」、「何をすべきかが明確」、「どんなことができたかのフィードバックがある」という、学習環境が必要です。評価においては、他者評価よりも自己評価、相対評価よりも到達度評価や個人内評価が学習意欲につながります。また、学習意欲を高めるためにも仲間との関わりが有効に働きます。

3 メタ認知と学習意欲の関係

メタ認知も学習意欲も、学習を進めていく上で双方向的な関係にあります。自分で目標や計画を立てて学習し、自分なりに振り返りを行うことで自身の進歩に気づき有能感が高まるという、メタ認知の流れによって、学習意欲が高まっていくのです。

本年度の研究を振り返って

本年度の教育研究発表会でいただいたご意見を基に

メタ認知は、難しい言葉で分かりにくいと思っていたが、提案や授業を見る中で、自分をモニタリングし、そしてコントロールしていくということが具体的に分かった。

自分を振り返ることを、一つの授業の中で何度も繰り返す重要性がよく伝わってきた。

本校も特別支援が必要な子供が多い。附坂小のメタ認知を取り入れた教育活動や特別支援の視点を大事にした授業づくりを参考にしていきたい。



個の発達に応じて、どのような姿が見られればよいか、それをどのように見取るのか、とても興味があるので、今後も研究を続けてほしい。

本研究会を通して、個の発達に応じてメタ認知を促すことで、互いに磨き合い、学び続けている子供の姿を少しでもご覧いただけたのではないかと思います。今後も、さらに研究を続け、個の発達に応じるとはどういうことか、メタ認知を促すとはどういうことかを、具体的な教師の働きかけや、子供の姿をご覧いただくことで実感いただき、皆様の授業づくりに役立てるものにしていけたらと考えております。

あ と が き

教 頭 やまじ 山路 あきよ 晃代

本年度は「互いに磨き合い、学び続ける子供の育成」を研究主題に置き、メタ認知を働かせることができるように、子供の発達段階や一人一人の特性に配慮して授業づくりを行って参りました。県内外の関係諸機関から多くの方にご参会いただき、様々な立場から貴重なご意見をいただいたこと、職員一同感謝しております。

次年度から本校の教育研究発表会を2年ごとに行います。そこで、日常の研究授業及び討議を公開したり、授業づくりワークショップを開催したりして、公立の先生方にどの時期でも訪れていただけるようにと考えています。日程につきましては、4月にホームページに掲載予定です。常日頃から公立の先生方とつながり、より公立校に貢献できる研究を目指して参りますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

編 集 委 員

中家 啓吾	清水 顕人
尼子 智悠	竹森 大介
山本 健太	滝井 康隆
西吉 亮二	

平成 31 年 3 月 15 日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692 FAX 0877-46-5218

E-mail sakaide@ed.kagawa-u.ac.jp

URL <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/>

